

地域と大学を結ぶ広報誌

城西

創刊号

Vol. 1

2012.2

特集 城西大学創立50周年に向けて
水田美術館 完成

未来の城西へ……

目次

- 02 特集[城西50周年に向けて]
理事長からのメッセージ
学長からのメッセージ
- 04 中期目標の紹介
- 05 副学長からのメッセージ
- 06 45周年事業の軌跡
- 08 新・水田美術館 完成!
- 10 [トピックス]
2011年度
中国進出のための若手人材育成
大連研修プログラム/実施報告
- 11 [エリア紹介]
坂戸市長からメッセージ
坂戸駅から広がるまちづくり
東武線沿線情報
おごせ散策「梅林」
[城西歳時記]
2012年2～4月: 城西大学の主な行事紹介

今号の表紙

学校法人城西大学創立45周年事業の一環として、城西大学坂戸キャンパスに4つのギャラリーを有した新たな美術館ができました。この美術館を通じて、さらに社会貢献性の高い文化活動を展開していきます。



理事長
から

世界と結び地域社会と連携する、 新たな時代に生きる大学に



水田 宗子

城西大学は、1965年に埼玉県坂戸市けやき台に開学しました。創立者の水田三喜男は、日本の戦後復興に力を注いだ政治家ですが、真の復興と発展のためには国と社会の将来を担う人材の育成こそが最も大切だと考え、「学問による人間形成」という建学の精神のもと、社会に「有為な人材」の育成を目的として本学を創立しました。

城西大学はさらに2015年の創立50周年に向けて、21世紀を生きる新世代の若者たちのため

学長から

城西大学生は、着実かつ堅実な 社会の構築へ貢献していきます



森本 雍憲

城西大学は、2010年に1965年の創立から45年という節目の年を迎えましたが、創立以来「学問はそれ自体が目的ではなく、あくまでも人間形成の手段である」という建学の精神をベースとして、現代社会が求めている人材の育成を教育の最重要課題として取り組んで来ました。その結果、坂戸キャン

託すメッセージ

の教育の方向を見据えながら、新たなミッションへと向かい始めています。

そのために、従来の基礎学問領域とそれに依拠する教育分野に加えて、社会が必要とする人材を輩出するという大学教育の本来的な役割にも応えるために、経済学部、経営学部、現代政策学部、理学部、そして薬学部の中に医療栄養学科も設置し、同時に短期大学の再編成や大学院の充実も行き、人間教育と人材育成が一体となった教育を実践しています。

世界経済の流れや社会構造がますますグローバル化し、人材育成を担う大学教育の在り方も大きく変容を迫られています。それに応えるため、城西大学は海外の大学との提携を、北米諸国から中国～アジア、オーストラリア、そしてヨーロッパ、アフリカへと広げていき、共同での教育と研究を進展させてきました。

また、日本国内では地域との連携教育を推進してきました。

パスは活気に満ち若々しい学生達の醸し出す雰囲気は、改めて本学の教育理念でもある人間形成の実現に向けて、私ども教職員を駆り立てていきます。

私は、機会あるごとに学生達に「ジェネラリストであると同時にスペシャリストを目指してください」と語っています。その実現に向けて城西大学で学んでいる間に、一つには内容のある日本語を明確に話せる人になること、二つには、少なくとも一つの外国語をマスターすること、そして三つめに、知らないことを知るといことを実行してもらいたいと考えております。城西大学は、これらの事柄が達成可能であるプログラムや施設を有していますので、学生達にはそれらを有効に利用して目標を達成してもらいたいと期待しています。

少子高齢化が進み、環境問題や経済不況などの課題が山積する中、これを解決し将来の社会を担う人材の育成、新たな学際的な思考能力、視点、実践力、コミュニケーション能力のある人材育成が必要とされてきています。このような社会人を育成するには、地域や自治体、企業との連携が必要です。城西大学は社会の各分野や地域との連携関係を広げる努力を重ね、様々な成果をあげてきており、これからも真摯に取り組んでいこうと決意を新たにしています。

城西大学は、社会的知と文化的伝統の継承と創造、さらには国際社会の平和的共存や地球環境の安全保持への貢献という使命も果たすとともに、地域社会にもますます貢献できる大学にしていきたいと思えます。学生の皆さんとともに、誇りに思うことのできる大学であり続けるために心を合わせて努力します。教職員が一丸となって学生や留学生の方々が人生の最も大切な時期を過ごす学びの場所、素晴らしい青春を過ごすことのできるキャンパスづくりを目指します。

21世紀を展望します時、人類は今後の持続的な発展をこれまでと同様の思考・行動に基づいては、成し遂げることは出来ません。限られた資源・空間を有効に活用する新しい考えが必要であり求められています。本学で学び育ったジェネラリストやスペシャリストが、勇気と自信を持って地球そして世界が求めている着実かつ堅実な新しい社会の構築に、大いに貢献するであろうことを望んでいます。城西大学は更に50周年そして100周年を目指して、学生達がグローバルな世界で活躍できる知識や能力を高め身につけられるように、社会が求めている教育とその成果、それを達成するプログラム開発に取り組んでいき、これからも謙虚に誠実に歩みを進めていきます。

学校法人城西大学 中期目標(2011~2015)

日本、アジア、そして世界のリーディング・ユニバーシティへ
《7つの J-Vision》

学校法人城西大学は、1965年の創立時より掲げてきた建学理念に基づいた教育を実践し、グローバルな知性を備え実社会に貢献できる人材を世に送り続け、活躍する卒業生は9万人を超えました。そして今、社会や時代の新たな要請に応えるべく、建学理念の現代的意味を改めて確認し、新たな時代に向け中期目標を策定しました。2015年に迎える創立50周年に向け、本学は更なる発展を目指します。

<建学の精神>

『学問による人間形成』

<大学の理念>

「社会の発展に必要とされる人材を育成することによって、人類の福祉に貢献すること」

普遍的な指針とすると同時に、現代的意味に改めて解釈し、
新たな時代に向けた大学の将来像を策定

<ミッション・ステートメント>

地球規模の課題や国内の様々な問題が山積する中で、新たな価値観を生み出すイノベーションが求められている。そうした中、幅広い教養と深い専門性を身につけ、諸課題を総合的に探究・解決し、積極的に社会に関わることができる人材、そして国際的にも通用する人材の育成を目指す。

学校法人城西大学 中期目標(2011~2015)

日本、アジア、そして世界のリーディング・ユニバーシティへ



1. 豊かな人間性の涵養と社会に有為な人材育成
2. 国際性、専門性を備え、日本文化を身につけたグローバル人材の育成
3. 教育力の継続的向上と地域・世界と直結した連携教育の強化
4. 研究力強化とイノベーションの推進
5. キャンパス環境の充実とグローバル化・ネットワーク化
6. 教育、研究、社会貢献のダイナミックな展開を支える経営基盤の確立
7. 発信力強化と社会的存在価値のさらなる向上

中期目標《7つのJ-Vision》を掲げ、「オール城西(All Josai)」の力を更に強めていきます。
城西の“J”は、日本(JAPAN)の“J”、そして参加と飛躍(JOIN&JUMP)の“J”でもあるのです。

学校法人城西大学 維持協会の

学校法人維持協会は、「学問による人間形成」という建学の精神にもとづく本学の教育活動を支える財政基盤の強化を目的として2007年11月に発足し、皆様のご寄付により基金の構築を進めて参りました。これまでのご支援に感謝申し上げます。

城西大学は2015年に創立50周年、城西国際大学は本年4月に創立20周年を迎えます。現在までの卒業生は9万人を超え、国内外の様々な分野で貢献する人材として活躍しています。本学の伝統は、在学生、そのご家族、同窓生、教職員をはじめ建学の理念に共鳴しその教育に共感する方々により築かれ、受け継がれていくものです。

維持協会では今春より「周年記念事業と連動した募金活動」を開始します。また、本学における教育・研究・スポーツ・文化の振興や、社会貢献・国際交流への助成を目的として、「用途を特定した寄付金」の募集を企画しております。活動報告、募金計画のお知らせに関しましてはメルマガ、ホームページを充実し、会員の皆様が生涯にわたり自己を高め、母校を通じて広く社会に貢献される窓口となるべく努力してまいります。

副学長から

未来の城西へ…… 託すメッセージ



草野 素雄

副学長、経営学部長
専門分野：マーケティング、
サービス・マネジメント

人材育成の拠点として、さらなる飛躍を

城西大学は2010年に45周年を迎え、50周年に向けて着実に歩を進めています。2010年1月から74回にわたり、『学校法人城西大学理事長水田宗子の人生ノート』が埼玉新聞に連載され、その後『高麗川の流れのほとりにて～水田宗子の人生ノート』というタイトルで出版されました。創立者水田三喜男先生から水田宗子現理事長に至るまでの城西の歴史と伝統が綴られており、日本新聞協会報「スポットライト」でも紹介された名著です。

2010年4月から周年事業を展開し、周辺コミュニティと連携して美しいまちづくりなどを実践してきました。地元の数々のイベントに参加したり、周辺農地を活用して生産した農産物を分配したり、特産品の販売を手伝ったりと、地域活性化にも貢献してきました。また、男女駅伝部、サッカー部、男女ソフトボール部、陸上部、弓道部などスポーツ面でも活躍し、関係者を元気づけてくれました。

2011年12月には、城西の新たな顔として水田美術館が開館しました。今後は、美術品の展示ギャラリーとしてだけでなく、城西の歩みやスポーツ・文化活動を紹介する発信基地として、そして地域や国際貢献のできる人材育成の拠点として活用していきます。2015年の50周年には、城西大学がさらに飛躍するよう、我々も全力を傾注するつもりです。



白幡 晶

副学長、城西国際大学副学長、
城西国際大学地域福祉・医療研究センター所長
専門分野：分析化学、生化学

人間性豊かなリーダー育成の継続を

今世紀に入り、情報のグローバル化、環境問題の顕在化、経済システムの変革が加速し、新たな枠組みへの対応が国際社会における世界規模の課題となっています。また我が国においては、少子高齢社会へ突入したことに加え、昨年の東日本大震災、原子力発電所の事故が、私たちの暮らしや生き方、人生観を大きく変える契機となりました。

「学問による人間形成」を建学の精神とする城西大学は、2015年に創立50周年を迎えるにあたり、課題を抱える未来社会を担う人材育成のための中期目標を作成し、その実現に向けた取り組みを開始したところです。大学の存在が地域や日本の力になり、大学で学ぶことでこれからの社会で生きる力を育てる、これまで創立以来本学が掲げてきた目標にたち帰り、中期目標に掲げたJ-Visionの達成と日本の再生のために邁進していきたいと思えます。

本学に学ぼうとする皆さんには、人類の歴史の中で誰もが経験したことのない新しい時代をたくましく生き抜く人材に育ってもらいたい、そして皆さんの夢の実現に向けた努力と、人の優しさやいたみを知る人間性豊かなリーダーとなるための努力を継続してほしいと強く思います。

45周年事業の軌跡

50周年に向けた更なる発展への願いを込め、2010年に45周年記念事業を行ないました



理事長あいさつ

学校法人城西大学は、2015年に迎える創立50周年に先立ち、2010年度に迎えた45周年の際に、様々なプロジェクトを実施しました。まず年度初めの4月16日(金)に、記念式典を執り行いました。その際に水田宗子理事長は、「社会にてグローバル化や少子高齢化などが進む中、城西も50周年に向け建学の精神である『学ぶことを通しての人間形成』の大切さを改めてかみしめつつ、変容・変革していかなければなりません」と挨拶しました。

そして2010年度には、城西そして社会の未来に向けた発展への願いを込めて、様々な記念事業が実施されました。その一部をご紹介します。

2010.7.17 ◎記念イベント

安全とエコの取り組み—— Three LOVEs & キャンドルナイト

2010年7月17日、城西大学において、「Three LOVEs & キャンドルナイト」を開催しました。地域の方々、オープンキャンパスで本学を訪れた高校生など多くの方が参加しました。

Three LOVEsは、自分自身の心身を大切に、相手の存在を尊重しようという「Love Ourselves」、自分の通う大学を大切に充実した大学生活を目指そうという「Love Our Campus」、そして大学周辺地域のことを知りその恩恵に感謝しようという「Love Our Community」の3つの「Love」を柱としています。

第1部では占い、ヨガ、エコ雑貨制作の無料体験ができるコーナーや、毛呂山町商工会や坂戸市観光協会などを含む22店が出店してバザールが開かれました。ステージでは大道



地域の皆さんとよさこい踊り(左)、キャンドルナイトコンサート(右)

芸やよさこい踊りなど多くのパフォーマンスが会場を盛り上げました。また、本イベントの目指す「安心・安全・自由で環境に配慮した社会」の実現に向けて、その決意を表明するためにマーチングが行われました。事前に学生が書き上げたプラカードを持ち、約1時間かけて、大学周辺地域をゆっくり行進しました。

そして第2部のキャンドルナイトでは、学生食堂から出た廃食油をリサイクルして学生と教職員が一緒に作った約1,000本のキャンドルが、光り輝きました。最後に経営学部の益子さんが「城西宣言」をし、安心・安全・自由なキャンパス、環境に配慮した社会をみんなで創り上げることを誓いました。Three LOVEsの3つのLOVEを大切にすることを、学生、教職員、地域住民が共有することを改めて誓いました。

「Three LOVEs & キャンドルナイト」の実施にあたり、全学が一丸となって取り組みました。特に城西では女性人材育成支援に力を入れており、学部を超えて参加した女子学生や「女性リーダー育成奨励生」の女子学生が企画・運営に大きな力を発揮し、マネジementやリーダーシップを体験するよい機会となりました。

2010.9.5 ◎創立45周年記念

城西大学・城西国際大学吹奏楽団 コンサート

2010年9月5日、「城西大学・城西国際大学吹奏楽団コンサート」を東京都港区赤坂のサントリーホール・ブルーローズで開催しました。テーマは「さらなる飛躍に向けて」で、城西



多くの観客を迎えて

大学と城西国際大学の吹奏楽団が初めて共演するコンサートとなりました。約350名の方が来場し、満員の客席からは演奏が終わるたびに盛大な拍手が起こりました。

第1部では城西大学吹奏学部とグリークラブが「A Huntin don Celebration」などを演奏しました。

第2部に登場した城西国際大学吹奏楽団は「ロシアの皇太子」「少年時代」「コルシカ島の祈り」を演奏し、来場者を魅了しました。

そして第3部では両大学吹奏楽団に、城西国際大学手話サークルである「スターダスト・キッズ」を加えた総勢約70名による合同演奏を行いました。演奏終了後も拍手は鳴り止まず、アンコールの演奏を行うなど、大いに盛り上がりました。

2010.12.18 ◎記念行事

クリスマス・イルミネーション・ナイト

2010年12月18日、城西大学にてクリスマス・イルミネーション・ナイトが行われました。このイベントを目当てに、近隣の皆さんや学生たちが大勢キャンパスに集いました。



吹奏楽部アンサンブル

ダンス部シューレースがヒップホップ・パフォーマンスを披露し、水田宗子理事長、森本雍憲学長、世界ジュニア陸上日本代表の田村

成美さん(当時・経営学部1年)、草野素雄副学長、木下高志県議会議員の挨拶の後、点灯式が行われボタンを押すと、キャンパスのイルミネーションが一斉にとまりました。

その後、吹奏楽部アンサンブル、グリークラブと木の会のコーラス、ハンガリー留学生によるハンガリー舞踊が繰り広げられ、教職員や学生も輪に加わって会を盛り上げました。

最後にメインイベントとして、経営学部非常勤講師の坂上順子先生率いるジャズバンドがデキシーランドジャズを演奏しました。留学生達の作った料理、スープ、ケーキなどに舌鼓を打ちながら、数百人の出席者は1920～30年代のアメリカの音楽を堪能し、古き良き時代の「クリスマスの夜」を満喫しました。

また、会場ではクリスマスマーケットが開かれ、ツリーを飾るオーナメントやハンガリー人留学生が作った色とりどりのお菓子が並び、地域の皆さんにも喜んでいただけ大いに賑わいました。

2011.2.23 ◎記念シンポジウム

日本経済・危機からの脱出に向けて

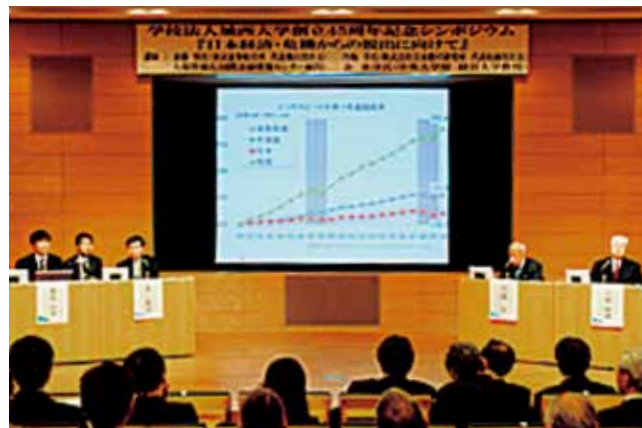
2011年2月23日、「日本経済・危機からの脱出に向けて」をテーマにしたシンポジウムを、紀尾井町キャンパスにて開催しました。経済の各分野の第一線で活躍されている、東京証券取引所代表執行役社長の齋藤惇氏、株式会社日本格付研究所代表取締役社長の内海孚氏、国際金融情報センター顧問の大場智満氏、韓国・中央大学校経営大学の金東淳教授の4氏を講師、パネリストとして招き、150名を超える参加者を迎えました。

シンポジウム前半では、日本経済の危機とその脱出策について、齋藤氏には証券市場の分析を通して日本経済の再生・活性化の方策、内海氏には国際金融の面からみた日本経済の再生策、大場氏には財政面、国際金融面から、特に最新の情報とユーロ危機の分析を通して再生の道を提言いただき、前半の最後に金教授から韓国経済の再生とその後の躍進策について講演いただきました。後半のパネルディスカッションでは、現代政策学部の霧島和孝教授をコーディネーターとして議論が展開されました。

今回のシンポジウムでは、日本経済が「失われた20年」からいかに脱却できるか、その道筋を探っていただきました。日本経済の危機からの脱出に際して、急速に拡大する新興国市場をいかに取り込めるか、いかに財政再建を図れるかが課題となるでしょう。



講演する齋藤東京証券取引所社長(左)
ディスカッションの様子(下)





水田宗子理事長



新・水田美術館 完成！ 装い新たに文化活動を展開

学校法人城西大学創立45周年事業の一環として2011年12月、城西大学坂戸キャンパスに、新たな水田美術館の建物ができました。美術館は4つのギャラリーからなり、今後は城西大学が有する貴重な浮世絵コレクションの公開展示や様々な企画展、地域ゆかりの文化紹介はもとより、大学の教育・研究・文化・スポーツ活動などを紹介していくインフォメーションセンターとしての機能も担っていきます。この美術館を通じて、城西大学は50周年に向けてより一層、社会貢献性の高い文化活動を展開していきます。

美術館所蔵の水田コレクション

—世界に誇る、貴重な浮世絵の数々—

城西大学水田美術館（旧／水田記念図書館8階）は、創立者の故・水田三喜男が生前に蒐集した浮世絵コレクションを母胎として、1979年に創設されました。水田コレクションは、浮世絵を中心に200点余りからなり、稀版画を含む9点の写



東洲斎写楽「嵐龍蔵の金貨石部金吉」

楽作品や、水田美術館とメトロポリタン美術館のみに6枚全てが存在する、鈴木春信の「六玉川」六枚揃も所蔵しているなど、稀少性の高いコレクションです。また本コレクションは、大半が役者絵と美人画からなり、人物や風俗に関心が向けられている点、菱川師宣から、鳥居

派、勝川派、歌麿、北斎などを経て幕末明治まで、浮世絵の発展過程を体系的に辿れる内容である事などが、大きな特徴です。

水田美術館開館記念事業

—式典と特別展—

2011年12月9日（金）、坂戸キャンパスにて美術館の開館記念式典と特別展がとり行われました。

神事のあと、水田宗子理事長をはじめとする学校関係者、設計・建設、行政関係者などによるテープカットが行われ、華々しく美術館が開館。約170名の招待客の方々やTV局や新聞社などマスコミ、近隣の方々や学生など、合計約650名の方々が館内を見学し、各ギャラリーで作品を鑑賞しました。2層建てで延べ床面積670m²におよぶ館内の4つのギャラリーでは、水田コレクションから選りすぐった当日1日限定展示の浮世絵名品展、近代風景画家として著名な橋本博英展、城西大学の歴史と歩みを振り返る写真パネル展、元・内閣総理大臣で現在は陶芸家としても著名な細川護熙氏の作品などが披露されました。

当日午後には開館祝賀会も行われ、水田宗子理事長が「創立者がこよなく愛した浮世絵のコレクションを中心に1979年、城西大学水田美術館は創設されました。そしてこの度、創立45周年を記念して装いを新たにしました。独立した建物としての美術館は本学としても初めてであり、今後は様々な展覧会や企画を行って城西大学の教育・研究に活用していくとともに、地域の皆様に愛され喜ばれる美術館を目指し、大事に育てていきたい」と挨拶しました。また、魯迅美術学院の油絵学部教授であり、中国を代表する「国家の画家30人」として認定されている王希奇先生も祝賀会に出席しました。王先生の作品展も今後の企画として予定されており、新しい美術館の今後の可能性でおいに賑わいました。



美術館コンセプトと設計者

—大学と地域の「文化的ハブ」に—

水田美術館は、社会において芸術が果たす教育・文化的役割に対する、大学としての深い認識と姿勢を発信していきます。4つのギャラリーはそれぞれ、貴重な浮世絵コレクションから先鋭的な現代美術まで幅広く多彩な展示や、様々なイベントやプレゼンテーションの場として機能します。

建物は、スリットから自然光が入りこむスロープとステップ状に展開する空間構成により様々なシーケンスを楽しむことができ、来訪者を印象的に優しく迎えます。大学そして坂戸のコミュニティおよび埼玉県エリアにおける「文化的ハブ」となるよう、城西大学はこの美術館を育てていきます。



GALLERY 1	
GALLERY 2	美術館外観
GALLERY 3	GALLERY 2



【設計／Studio SUMO】

1998年にスニール・ボールド氏とヨランダ・ダニエルズ氏により設立された、ニューヨークを基盤とする設計スタジオで、構築環境の社会的・文化的な要素を引き出すことに定評があります。

2008年、「城西大学経営学部棟」で米国建築家協会から「メリット賞」を受賞しました。

スニール・ボールド氏 (写真左)

建築家、イェール大学で教鞭もっている。
城西国際大学の客員教授も務める。

ヨランダ・ダニエルズ氏 (写真右)

建築家、コロンビア大学で教鞭もっている。
城西国際大学の客員教授も務める。



今後の展示予定

2012年4月以降、以下の展示を企画・準備中です。

●水田コレクションより

浮世絵等、「水田コレクション展」「浮世絵版画のできるまで展」他

●企画展

「高円宮久子妃殿下野鳥写真展」「細川護熙展」「柳澤紀子展」「大庭みなこ展」

「コーシャ・フィレンツ(ハンガリー映画監督・写真家)写真展」

「日中国交回復40周年記念—王希奇展」(満州からの引揚げをテーマとした作品など)

「理学部数学科主催—錯視展」(監修／数学者・新井仁之氏)

「ハンガリー民芸展」「地域アーティスト展」「学内活動の展示」他

～ 2011年度 中国進出のための若手人材育成 ～

大連研修プログラム **実施報告**

研修企画・実施：城西大学 大連理工大学
後援：埼玉県（財）埼玉県産業振興公社（埼玉国際ビジネスサポートセンター）

若手社員を育成し中国進出 —
埼玉県と県産業振興公社の後援による大連研修



大連理工大学工商管理大学院長・劉曉冰教授による白熱講義



大連の街並み

研修のねらい

中国ビジネスを多彩な視点から体験

埼玉県内企業の若手社員を対象に、中国・大連研修プログラムが2011年10月31日（月）～11月25日（金）に実施されました。

本研修は、グローバル人材育成を大きな政策の柱として推進している埼玉県と（財）埼玉県産業振興公社の後援により、城西大学と大連理工大学が共同で実施したもので、その目的は大きく以下の3つです。

- 中国理解および中国でのビジネス全般を学ぶ事
- 研修参加者それぞれがテーマを持ち、自社の中国展開の可能性を調査・研究する事
- 多くの人や組織と交流し、中国での豊富な人脈づくりにつなげる事

大連市は、日本企業も多く進出し中国経済をリードしており、社員研修には格好の現場です。また大連理工大学は、大学院（MBA）が高く評価されている中国トップクラスの大学で、城西大学と活発な交流活動を行っている関係から、今回の研修が実現しました。城西大学からは、経営学部の福島和伸教授、大島卓教授と現代政策学部の渡辺博子准教授が、大連に同行し研修の指導にあたりました。

中国での研修内容

充実の講義、多彩な企業訪問、
個々のテーマに沿った調査など

今回は、県内の製造業を中心にサービス業も含め9名が研修に参加しました。参加者は4週間の研修期間中、大連理工大学工商管理大学院を中心とした講師陣から中国の産業や経営に関する講義や中国語基礎講座、大連で活躍しているビジネス界からの講師陣による特別講義を受講しました。また、大連経済技術開発区管理委員会やジェットロ大連事務所などの公的機関や企業を訪問したり、工場見学を行いました。訪問企業は、日系大手～中小企業、中国企業の様々な業種9社にわたり、経営幹部への質疑応答の機会も得ました。全体カリキュラムに加え、参加者が各人の研究テーマに従って個々に企業を訪問し、インタビューやアンケート調査も行いました。

また、幅広い交流機会を得るため、企業に勤務しながら大連理工大学MBAコースに在籍する大学院生との交流会や、城西大学大連東北学友会（大連で活躍している城西大学大学院の修了生など）との交流会も開きました。

最終4日間は締め括りに、やはり大きく発展している上海で研修を実施しました。ここでは、埼玉県上海ビジネスサポートセンターや企業を訪問したり、上海交通大学で特別講義を受け、さらには中国企業の経営幹部を招いた交流会も行いました。参加者には大連での最終日に、大連理工大学と城西大学との連名による修了証書が授与されました。



参加者は修了証を手に先生方と記念撮影

帰国後

これからへの期待

帰国後2011年12月15日（木）に、（財）埼玉県産業振興公社にて研修成果発表会を行い、参加者が各人の得た成果や今後に向けた課題などを発表しました。研修を指導した福島教授からは、「参加者の皆さんには、中国で体得した事や研修内容をよく整理し、玉石混交から本質を見抜く力を養い、今後のビジネス展開で役立ててほしい」とエールが送られました。

参加者コメント ① (株)興電舎 鈴木雄三さん

FA機器の中国市場におけるニーズを探る事を目的としましたが、社会保険料を含む人件費高騰の実態に触れ、自動化機器のニーズは高いと実感しました。食事や買い物、交通確保を自分たちで行う事が多く、現地生活の一端を体験できたのは貴重でした。



参加者コメント ② (株)日新化成 早川聖人さん

中国のマネジメントと、製造業の実態を探る事を目的としました。日本と中国を比べ「マネジメント」が「技術（継承）」と深く関連する事に気づき、日本企業の強みを再認識しました。中国政府のダイナミックな動きからも、学ぶべき点や課題を見出せました。



エリア紹介

坂戸市

坂戸駅から広がるまちづくり

～伊利仁 坂戸市長からのメッセージ～



城西大学広報誌の創刊おめでとうございます。

坂戸市は、埼玉県ほぼ中央に位置し、都心から45km圏内にあります。清流高麗川をはじめとした豊かな自然の中であって、東武東上線・越生線、また関越道や圏央道が縦貫する交通の要衝でもあり、その自然環境と交通利便性を兼ね備えた、人にやさしい街として発展してきました。

このような中、本市のさらなる飛躍の礎として、市の玄関口であります坂戸駅の南北口分断問題の解消に着手し、2011年10月に坂戸駅の新駅舎と南北自由通路が完成しました。今後におきましても、新しく生まれ変わった坂戸駅を拠点に、周辺地域の活性化に向けた魅力あふれるまちづくりを推進していきたいと存じます。



坂戸駅舎外観

また、本市には、城西大学・明海大学・女子栄養大学の3つの大学があり、大学との各種連携事業による街づくりを展開しております。

その中であって、城西大学との相互連携協力協定事業は、今年度で4年目を迎え、地域の活性化、健康・福祉・環境などの様々な分野に、知的・人的・物的な側面から協力をいただいています。

皆様には今後この広報誌を通じて、坂戸よさこいをはじめとして坂戸市の魅力を発信していきますので、ご期待ください。



④完成記念イベント ⑤ステンドグラス(南口)

東武線沿線情報

春のおごせ散策「梅林」

～越生町と東武鉄道からのご案内～

大学から近い越生町に、関東三大梅林のひとつに数えられる「越生梅林」があります。園内には1,000本以上の梅の木が植えられ、樹齢600年の銘木・魁雪もあります。見ごろは2月下旬～3月上旬で、梅まつり中は屋台が出て園内をミニSLが走るなど多くの人でにぎわい、ひと足早い春を楽しめます。また、今年の梅まつりの開催期間は、2月11日(土)～3月20日(火)の予定です。花の開花状況や梅まつりなどの情報は、越生町ホームページや越生町観光協会(Tel.049-292-3121・内線145/テレホンサービス049-292-5315)などで得られます。

また出かける際は、東武東上線と越生線の各駅(越生、寄居を除く)から乗車・購入できる「おごせ散策きっぷ」を活用すると、東上線の運賃割引に越生～黒山間のバス1日乗り放題または越生町観光案内所でのお買い物券がつかます。他にも、梅まつり期間中は越生梅林の入園料が割引になるなどの特典もあるので、1日じっくり越生を楽しめます。詳しい情報は、東武鉄道お客さまセンター(Tel.03-5962-0102/8:30～19:00・年末年始を除き年中無休)や、東上線・越生線の各駅で配布中のパンフレットなどで得られます。



①獅子舞など、さまざま催しも開かれます
②満開の梅林

■城西歳時記 2012年2～4月の、城西大学の主な行事をご紹介します

2012. 2. 13(月)～17(金)	2012. 3. 7(水) 卒業発表(薬学部)
インターンシップ	2012. 3. 22(木) 卒業式
2012. 2. 20(月)～21(火)	2012. 4. 5(木) 入学式
成績発表・卒業発表	2012. 4. 14(土) 新入生歓迎会

編集／学校法人城西大学 広報センター
発行／城西大学 総務部総務課
〒350-0295 埼玉県坂戸市けやき台1-1
Tel.049-271-7712
<http://www.josai.ac.jp>

2012年2月発行



城西大学
JOSAI UNIVERSITY